

## 《家庭養育優先原則の徹底の3本柱③》

### 7. 施設の小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換に向けた取組み

「家庭養育優先原則」において、施設も「できる限り良好な家庭的環境」、すなわち小規模かつ地域分散化された施設である地域小規模児童養護施設（グループホーム）や分園型小規模グループケアでの養育が求められています。

また、施設の専門性を活かし、子どもを保護し、養育する重要な役割を担ってきた乳児院や児童養護施設については、「家庭養育優先原則」を進める中においても、施設での養育を必要とする子どもの養育に関し、高機能化された養育や親子関係再構築に向けた保護者等への支援を行うとともに、里親や特別養子縁組を含む在宅家庭への支援等を行うことなど、施設の多機能化・機能転換を図ることにより、更に専門性を高めていくことが期待されています。

一方で、パーマネンシー保障が確立し、里親養育推進が実現するまでの間、保護が必要な子どもの行き場がなくなることはないよう、十分な受け皿を確保する必要があります。

こうしたことを踏まえながら、施設で養育が必要な子ども数の見込みを推計し、「できる限り良好な家庭的環境」において養育されるよう、3つ目の柱として施設の小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換に向けた計画を策定するものです。

#### （1）施設（乳児院・児童養護施設）で養育が必要な子ども数の見込みと施設の定員数の計画値

##### 【基本的考え方】

- 県では、各施設へのヒアリングを随時行いながら、里親養育推進が実現するまでの間、保護が必要な子どもの行き場がなくなることはないよう、施設の十分な受け皿を確保していきます。

＜表 18＞ 施設で養育が必要な子ども数の見込み (単位：人)

区分／年度	現状(H30)	令和6年	令和11年
施設で養育が必要な子どもの数	215	171	138
3歳未満（0～2歳）	14	8	5
3歳以上就学前（3～5歳）	17	11	6
学童期以降（6～18歳）	184	152	127

- 「施設で養育が必要な子ども数の見込み（表18）」については、「代替養育を必要とする子ども数の見込み（24頁、表6）」から「里親等への委託子ども数の見込み（24頁、表7）」を減じて、推計しています。

【現状】

- 児童人口の減少、里親養育の推進により、施設で養育が必要な子ども数は減少する見込みです。
- 乳児院については、平成31年4月1日に県内で初めて民間立の「乳児院はやぶさ」が山形市に開設しました。既存の県立鶴岡乳児院と併せ、内陸と庄内の県内2施設体制となり、保護者面会の利便性等が図られ、子どもの状況に合わせた対応ができるようになりました。
- 平成23年に「山形県行政支出点検・行政改革推進委員会」において、「出先機関の見直しの方向性について」が取りまとめられ、鶴岡乳児院は民間移譲を検討すべきとされ、平成24年3月に子育て推進部において「見直し方針」が策定されています。
- 令和元年12月1日現在の乳児院の定員は、「乳児院はやぶさ」、鶴岡乳児院共に20人となっています。
- 乳児院の定員と入所している子ども数の推移は以下のとおりです。

<表19> 乳児院の定員と入所子ども数 (単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
定員数	30	30	30	30	30	40
入所子ども数	14	20	16	13	14	18

※各年度末人数、令和元年度は10月1日現在

- 児童養護施設については、県内全4地域に5施設がバランス良く設置されていますが、定員数は地域毎に異なり、入所率（定員に占める入所割合）には施設差があります。
- 令和元年12月1日現在の児童養護施設の定員は、5施設合計233人となっています。
- 児童養護施設の定員と入所している子ども数の推移は以下のとおりです。

<表20> 児童養護施設の定員と入所子ども数 (単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
定員数	233	233	233	233	233	233
入所子ども数	209	203	205	185	178	188

※各年度末人数、令和元年度は10月1日現在

### 【課題】

- 児童養護施設では、保育士等の確保が困難になるなど人材不足が深刻化しています。また、児童福祉施設職員の人材育成には、時間を要することから養育の質の維持が課題となっています。
- 鶴岡乳児院については、民間移譲に向けて検討・調整等が必要です。

### 【取組】

- 施設で養育が必要な子ども数が減少する見込みの中で、県内施設の定員数の計画値も減少しています（表 21）。
- 県では、見込みと計画値の差（表 21 参照）を、虐待認定件数の急増による代替養育の増加や、保護者が里親に同意しない場合等、見込み外の要因に対応するセーフティネットとして確保していきます。

<表 21> 県内施設（乳児院・児童養護施設）の定員数の計画値（単位 人）

	現状(H30)	令和 6 年	令和 11 年
施設で養育が必要な子ども数の見込み（県推計）	215	171	138
施設の定員数の計画値（各施設計画合計）	273	249	226

※現状では、乳児院（2 施設、定員 40）、児童養護施設（5 施設、定員 233）

- 県においては、「社会的養護関係職員人材育成事業」や「児童養護施設職員資質向上支援・人材確保事業」により研修等を通じて人材育成を図っていきます。
- 鶴岡乳児院について、「見直し方針」に基づき、引き続き民間移譲を検討していきます。

## （2）小規模かつ地域分散化に向けた取組み

### 【基本的考え方】

- 県は、児童養護施設等における「できる限り良好な家庭的環境」を確保するため、グループホーム等の小規模かつ地域分散化を推進します。

### 【現状】

- 平成 31 年 4 月 1 日に県内で初めてのグループホームが鶴岡市に開設されました。
- 児童養護施設の施設内ユニットによる小規模グループケアについては、令和元年 12 月 1 日現在、4 施設が 7 ユニット 51 名定員で実施しています。
- 「乳児院はやぶさ」では、定員 20 名が全て小規模グループケアによる実施となっています。
- 児童養護施設での生活等に関しての子どもの意見は、44 頁「アンケート資料 5」のとおりです。

### 【課題】

- 鶴岡乳児院については、老朽化が進んでおり、現在の建物の構造及び間取りでは、小規模グループケアを行うことが困難な状況です。
- グループホームの開設に当たっては、地域の空き家や賃貸物件を活用することが多く、改修工事が必須となりますが、施設より財政的支援の拡充について要望が出されています。
- 職員についても小規模かつ分散化されるため、OJTによる実践的な研修が難しくなるとともに、職員一人への負担が増すとされています。職員の資質向上やメンタルヘルスが課題となります。
- 取組みを進めるに当たっては、公設民営の児童養護施設2か所については、設置市の所管部局とも十分な協議が必要です。

### 【取組】

- 鶴岡乳児院の小規模化については、民間移譲と併せて検討します。
- 県は、児童養護施設の小規模かつ地域分散化を推進するに当たっては、各施設及び設置市へのヒアリングを随時行い、施設の実情を十分に踏まえながら、下記を目標数値として助言及び支援を行っていきます。

### 【児童養護施設における「良好な家庭的環境」の確保の目標】

指 標	現状(R1)	令和6年	令和11年
児童養護施設の定員数の計画値(各施設計画合計)	233人	219人	196人
小規模グループケア(施設内ユニット)	51人	54人	70人
グループホーム(小規模かつ地域分散化)※	1か所6人	6か所36人	8か所48人

※地域小規模児童養護施設と小規模グループケア(分園型)

- 県の人材育成研修の実施に当たっては、施設の小規模かつ地域分散化に合わせた内容についても検討していきます。

### **(3) 高機能化及び多機能化・機能転換に向けた取組み**

#### **【基本的考え方】**

- 施設の長年にわたって培われた専門性は、児童福祉の推進において貴重な財産・資源です。県は、この専門性を生かしながら積極的に施設と連携を図り、高機能化及び多機能化・機能転換を推進します。

#### **【現状】**

- 各乳児院では、里親マッチング・トレーニングの実施等里親支援を実施しています。
- 県内すべての乳児院・児童養護施設で一時保護受託を行っていますが、一時保護専用施設を設置している施設はありません。
- 児童家庭支援センターを併設している児童養護施設が2か所あります。
- 県内すべての児童養護施設と乳児院、母子生活支援施設で市町村の子育て短期支援事業を受け入れています。
- 児童自立支援施設については、入所児童支援の機能を強化し、施設の老朽化及び狭隘化を解消するため、平成31年3月に「山形県立朝日学園基本構想」を策定しています。
- 児童心理治療施設は、被虐待等による愛着形成に課題や発達障がいがあり、ケアニーズが非常に高い子どもの支援のための施設ですが、本県には設置がありません。

#### **【課題】**

- 高機能化及び多機能化・機能転換を図るうえで、専門性がますます高まっていくことから、職員の意識改革、資質向上を目指した研修体制の充実が必要となります。
- 本県には現在児童心理治療施設が無い状況であることから、ケアニーズが非常に高い子どもに対しては、多様な専門職による集中的なケアが必要となるため、できるだけ少人数（4人まで）で支援を行う児童養護施設や、児童自立支援施設における心理的ケアの充実などの高機能化の必要性があります。
- 取組みを進めるに当たっては、公立民営の児童養護施設2か所については、設置市の所管部局とも十分な協議が必要となります。

## 【取組】

- 県は、乳児院の意向を踏まえ、里親支援機能の強化、市町村と連携した在宅支援や特定妊婦支援の強化など、機能強化が図られるよう支援していきます。
- 現時点で、児童養護施設の高機能化（ケアニーズが非常に高い子どもに専門的なケアを行う養育体制の充実）を計画している児童養護施設は、2施設です。

児童養護施設における「ケアニーズが高い子ども養育体制」の確保 ＜目標＞ 県内2か所 定員8人（令和6年度まで）
--

- 県は、上記2か所の取組みを先進事例として、各施設において高機能化の取組みがさらに推進されるよう、支援していきます。
- 児童自立支援施設については、令和2年度までに「山形県立朝日学園整備基本計画」の策定を行い、心理療法や個別対応などの、より高度で専門的な支援が充実するよう施設整備に取り組んでいきます。
- 一時保護受託、子育て短期支援事業、アフターケア事業、里親推進事業、児童家庭支援センター設置など、多機能化・機能転換を推進するに当たっては、各施設及び設置市へのヒアリングを随時行い、ニーズの把握と施設の実情を十分に踏まえながら、助言及び支援を行っていきます。

(アンケート資料5)

**【児童養護施設に関する子どもの意見】**

対象：児童養護施設に措置されている小学校4年生以上の全ての子ども（146人中134人が回答）

(Q11) あなたの今の生活で楽しいことを教えてください。(自由記述)

(A11)

みんなと遊べる、友達と遊べる、小さい子と遊べること	18人(14.5%)
ゲーム、カードゲームができること	17人(13.7%)
学校生活	13人(10.5%)
楽しい行事、季節イベント、旅行、外出	11人(8.9%)
部活動、運動ができること	10人(8.1%)
寝ること	6人(4.8%)
テレビ、アニメ、音楽番組を見ること	6人(4.8%)
会話、みんなと話すこと、いろいろな年の人との交流	4人(3.2%)
体育館、外で遊べること	4人(3.2%)
パソコン、スマホ	3人(2.4%)
食事、ご飯を食べること	2人(1.6%)
漫画	2人(1.6%)
その他(一人でいるとき、バイトしてること、など)	6人(4.8%)
なし	22人(17.7%)
合計	124人(100%)

(Q12) あなたの今の生活で嫌なこと、つらいこと、困っていることを教えてください。(自由記述)

(A12)

職員がうるさい、職員の接し方・関わり、幼児さんばかりに優しい、自分の将来のことを考えて言ってくれているのはありがたいけどもう少し気持ちを考えてから言ってほしい	8人(6.8%)
暴力、悪口、あだなが嫌、からかわれる	7人(5.9%)
金銭面、小遣いが少ない	7人(5.9%)
施設のルール、思うように遊べない・外出できない、自由がない	6人(5.1%)
勉強	6人(5.1%)

全て、いろいろ、暮らし	5人(4.2%)
プライバシーがない(他の子がうるさい、部屋に入ってくる)	4人(3.4%)
部活動	3人(2.5%)
就職先、将来のこと	2人(1.7%)
スマホ等がないこと	2人(1.7%)
その他(職員の体制が悪く話を聞いてもらえない、家の物を持ってこれない、部屋にテレビがない、など)	10人(8.5%)
なし	58人(49.2%)
合計	118人(100%)

(Q13) 施設での生活をよくするために、してほしいと思うことを教えてください。(自由記述)

(A13)

外出を増やしてほしい	7人(6.3%)
Wi-Fiがほしい	7人(6.3%)
ルール(時間制限)を緩めて欲しい	6人(5.4%)
職員の接し方・厳しい指導を変えてほしい、子どもと向き合 って話を聞いてほしい	6人(5.4%)
もっとお金(小遣い)がほしい	4人(3.6%)
静かにしてほしい、一人の時間を作りやすくしてほしい	4人(3.6%)
もっと友達と遊べるようにしてほしい	3人(2.7%)
差別なしで、仲良くしてほしい	3人(2.7%)
遊具(ブランコ、バスケットボール)を増やしてほしい	3人(2.7%)
ボランティア(もっと外で活動する機会を作って欲しい)	2人(1.8%)
ケンカなどしないようにしてほしい	2人(1.8%)
他のユニットに入れるようにしてほしい	2人(1.8%)
もっと家みたいにしてほしい、家庭の食べ物が食べたい	2人(1.8%)
その他(動物を飼って良いことにする、ブラックコーヒーが 飲みたい、送迎してほしい、職員の給料を上げろ、他の子どもが職員を少しでも大切にしてほしい、など)	12人(10.8%)
なし	48人(43.2%)
合計	111人(100%)